

黒帝

能村 研三

句碑に詠まれた桜

今年の桜は全国的にいつもより早く咲きそうだとされているが、去年と同様賑やかなお花見は出来そうもない。

今年の俳人協会の「花と緑の吟行会」は市川で行われる。昨年も予定していたが、コロナのため非常事態宣言が出され急遽中止になった。今年には十分な感染対策をとった上で何とか実施を予定している。

下見を兼ねて、吟行地となる真間山弘法寺の伏姫桜の開花状況を見に行った。三月十一日の時点で、伏姫桜の枝垂れた枝が地に着きそうな部分に何輪かの花をつけていた。あと二、三日もすればかなり咲くのではないかと思われる。

同じ境内にある染井吉野の桜は蕾が膨らんでいるものの開花はまだのようである。

ここには、富安風生がこのしだれ桜を詠んだ
まさなる空よりしだれざくらかな
の句碑がある。以前はしだれ桜の枝がかかるとかからないかの所に句碑があったが、昨年あたりから桜と反対側の鐘樓の前に移動してしまったのは残念である。

ところで、先師登四郎が桜を詠ん

凍滝の刻を封じて修羅の相

仮借なき黒帝といふ神の名は

あらためて水火虔しむ七日粥

山裾のまだつめたさの初霞

青笹に日のあたりたる涅槃かな

涅槃図の遠近合はぬひとところ

外し置く眼鏡が遠しかすみ草

分陰を追ひ追はれしておぼろの夜

春陰や日延べ許さる一催事

鷹鳩に詮無き役を辞められず

だ句碑は全国に三つ設置されている。その一つ、私の家の近くにある市川学園のグラウンドには

ひらく書の第一課さくら濃かりけりの三師句碑の一つに登四郎のこの句が刻まれている。

登四郎がこの句を読んだ昭和二十年代は、四月の入学式の頃に見ごろとなり、授業が始まる頃には桜の花も濃くなっていたようだが、最近地球温暖化の影響なのか三月の卒業式の頃に満開になってしまうことも多い。

二つ目の句碑は愛知県岡崎市の大樹寺の境内にある句碑で

睦み合ふごとし雨中の松さくら

この句碑開眼の日は平成四年四月四日で登四郎は「佳き日てふ四の字づくしのさくら句碑」と詠んでいる。

三つ目は奈良県東吉野にある

霊地にて天降るしだれざくらかな

の句碑で、一昨年の秋に久しぶりに奈良支部の大浦郁子さんとちと東吉野の句碑を訪ねた。いつか寶藏寺のしだれ桜が満開になった頃に訪ねたいと思っているが、未だ実現出来ないでいる。

能村 研三